

製品名: カード 11 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07924**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	CARD11
別名	CARD11; CARMA1; Caspase recruitment domain-containing protein 11; CARD-containing MAGUK protein 1; Carma 1
遺伝子 ID	84433.0
SwissProt ID	Q9BXL7
免疫原	抗血清はヒト CARD11 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

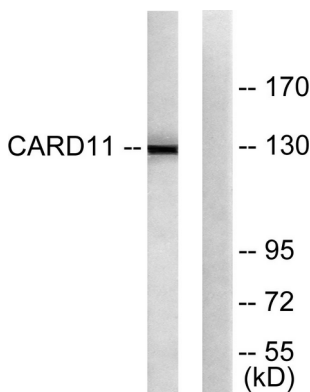
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜結合型グアニル酸キナーゼ (MAGUK) ファミリーに属し、細胞膜の特定の領域に

において多タンパク質複合体を組み立てるための分子骨格として機能するタンパク質群です。また、このタンパク質は、特徴的なカスパーゼ関連リクルートメントドメイン (CARD) を有することで定義される CARD タンパク質ファミリーのメンバーでもあります。このタンパク質は、CARD14 タンパク質と類似したドメイン構造を有しています。両タンパク質の CARD ドメインは、細胞アポトーシスおよび NF- κ B 活性化の正の調節因子として機能することが知られているタンパク質である BCL10 と特異的に相互作用することが示されています。細胞内で発現すると、このタンパク質は NF- κ B を活性化し、BCL10 のリン酸化を誘導しました。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月];注意:PROSITE、Pfam、SMART では検出されない SH3 ドメインを含むと考えられます。機能:BCL10 および IKK を介して NF- κ B を活性化します。BCL10 のリン酸化を刺激します。類似性:1 つの CARD ドメインを含みます。類似性:1 つのグアニル酸キナーゼ様ドメインを含みます。類似性:1 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。サブユニット:CARD11 と BCL10 は CARD-CARD 相互作用によって結合します。組織特異性:成人末梢血白血球、胸腺、脾臓、肝臓で検出されます。前骨髄球性白血病 HL-60 細胞、慢性骨髄性白血病 K562 細胞、パーキットリンパ腫 Raji 細胞、大腸腺癌 SW480 細胞にも認められる。HeLa 細胞 S3、Molt-4、A549、G431 細胞では検出されない。

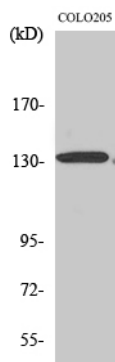
研究分野

T 細胞受容体;B 細胞抗原;

画像データ



COLO205 細胞ライセートの CARD11 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CARD 11 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析